AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

卒業研究抄録集(看護学科)(2022.12)令和4年度:

فجـ نى ثي ° قمم

, ـ

児童虐待事例に向き合う保健師の支援に関する文献検討

笹原温大、鈴木歩佳
（指導：塩川幸子）

緒　言

近年公衆衛生看護の実践の場では，複雑化した健康問題や生活上の問題を抱える「支援困難事例」への関わりが求められる[1]。

支援困難事例や介入拒否事例に対して保健師が感じる困難や対処の文献検討[2)3)]や支援の困難さを明らかにする研究[4)5)]も多く見られる。

児童虐待相談対応件数は年々増加しており[6]、2000年に「児童虐待の防止等に関する法律」が制定され、健やか親子21（第2次）においても児童虐待が重点課題に掲げられた。これらにより市町村では虐待の早期発見と保健師の家庭訪問による積極的な支援などの対策が推進されている[7]。

児童虐待事例への支援に関する文献はあるが、集積したものはみられないため、保健師が行っている支援内容を分析し、支援のあり方を検討する意義は大きい。

本研究は、支援困難が予測される児童虐待事例に向き合う保健師の支援内容を明らかにすることを目的とした。

用語の定義

支援内容：保健師が行う支援の意図および内容を指す。

方　法

研究対象：医中誌 web を使用し、原著論文、会議録を除く、症例報告・事例除く、本文あり、2012～2022 年を絞り込み条件として検索した。「児童虐待」「家庭訪問」「保健師」では 23 件、「児童虐待」「支援」「保健師」では92 件ヒットした(検索日:2022年4月27日)。検索した文献の抄録を概観し、児童虐待事例に対する保健師の支援の意図や内容が述べられており、解説を除いた 10 文献とハンドサーチによる 1 文献の計 11 文献を選定した。さらに本文を精読し、本研究の目的に合致する 9 文献を対象とした。

分析方法：グレッグら[8]の「質的記述的研究」の分析方法を参考に行った。2 名の研究者で対象文献を精読し、児童虐待事例に対して保健師が行った支援の意図・内容を抽出しコード化、類似性に沿ってサブカテゴリ、カテゴリを生成した。分析は 2 名の研究者で繰り返し検討し、指導教員の助言を受け、著者の意図する意味内容を変えないよう留意した。

倫理的配慮：本研究は先行研究に基づく文献検討である。文献は著作権の範囲内で使用し、出典を明示した。

結　果

保健師の支援について、3 コアカテゴリ、10 カテゴリ、45 サブカテゴリが生成された（表 1）。以下、コアカテゴリを【　】、カテゴリを《　》、サブカテゴリを〈　〉で示す。

保健師は【育児力のアセスメント】として、《子育てで孤立する要因を捉える》、《親になる準備ができているか捉える》中で、《子育てしていくための力を見立てる》、《いつどの程度の支援が必要になるか判断する》ことをしていた。

【継続的な関わり】では、《母親を尊重しつながり続ける》ことを重視し、《母親の思いを受け止め育児に向き合えるよう関わる》、《母親の力に合わせて育児力を育てる》とともに《緊急性を見極めて介入する》支援を行っていた。

【多職種連携】では《多職種連携による親子支援》とともに《チームで支え合う》体制づくりをしていた。

表 1　児童虐待事例に向き合う保健師の支援内容

ｺｱ(3)	カテゴリ(10)	サブカテゴリ(45)	文献NO
育児力のアセスメント	子育てで孤立する要因を捉える	家族関係から支援の得られにくさを捉える	2,5,6
		人との距離感の取りにくさを感じる	5,6
		経済的な不安定さを把握する	5,6
	親になる準備ができているか捉える	母親の被虐待歴の有無を確認する	5
		知的レベルを読み取る	5,6
		子どもを産むことへの迷いがあるか察知する	5
		子どもへの愛着を読み取る	5,6
		妊娠中の身体を気遣うことができるか判断する	5
		育児のイメージができているか確認する	5
	子育てしていくための力を見立てる	母親の育児能力を把握する	1,5
		生活能力を見極める	6
		助言を取り入れる力を捉える	2,9
	いつどの程度の支援が必要になるか判断する	継続支援の必要性を判断する	6
		連携の必要性を判断する	7
継続的な関わり	母親を尊重しつながり続ける	信頼を得るために誠実に向き合い続ける	1,3,9
		SOS を出してもらえるよう相談相手になる	3,5,6,8,9
		母親のペースに合わせる	5,6,9
		母親のニーズを優先する	5,6,9
		母親の特性に合わせて関わる	2,9
		母親の健康を気遣う	3,5,6,8,9
	母親の思いを受けとめ育児に向き合えるよう関わる	寄り添って傾聴する	1,2,3,5,6,9
		育児に対する思いを引き出す	3,8,9
		できていることを見つけフィードバックする	2,5,6,9
	母親の力に合わせて育児力を育てる	出産・育児の準備を一緒にする	5,6,8
		母子関係を深める関わりをする	2,5
		発達の見通しを持ち子どもの対応を伝える	9
		具体的な育児や生活技術を教える	1,2,3,5,6
		母親の気持ちを動かし主体的な行動に繋げる	2,7
		家族の協力を得て育児環境を整える	1,2,5,6,8,9
	緊急性を見極めて介入する	子どもの安全を守るために継続支援を行う	1,2
		困りごとに対してタイムリーに関わる	2,5,6,9
		母子の健康に影響を及ぼす手前で介入する	3,5,6,9
多職種連携	多職種連携による親子支援	重層的にチームでアプローチする	1,2,4,5,6,7,8
		社会資源の活用を支え地域の中につながりを作る	2,3,8
		医療機関と連絡調整や受診同行を行う	2,5,6,8
		保育園につなぎ子どもの健全な発達と生活を見守る	2,8
		就学に向けて子どもの状況を伝える	2,4
		関係機関と協働して生活基盤を整える	2,4,8,9
	チームで支え合う	共有した情報を統合しニーズをつかむ	5,6,7
		支援の方向性の共有し役割分担を行う	2,6,7,8
		支援が円滑に進むように調整を行う	5,6,7,9
		緊急時に関係機関への支援を要請する	2,7
		協働の結果を振り返り次の支援に活かす	2,7
		しんどい思いや気がかりを共有する	1

注）ｺｱ：コアカテゴリを示す

考　察

1. 育児力のアセスメントの特徴

保健師は《子育てで孤立する要因を捉える》ことで、家族や周囲の人との距離感が遠い場合、悩みや困難を打ち明けることなく抱え込み、育児に意識が向かないリスクを判断していた。また、経済的に不安定な場合には生活の維持が中心となり、子どもに目を向ける余裕がなく、育児放棄につながる可能性がある。これら

のことから、母親が育児に向き合える環境にあるかどうかを把握することが重要である。

《親になる準備ができているか捉える》では、母親の被虐待歴の有無などを確認することで、母親自身の対象理解を深め、虐待に結び付く母親の個人因子を理解して、対応を考えていた。

《子育てしていくための力を見立てる》では、育児の技術だけでなく、母親が１人の人間として生活できることや育児に関する助言を取り入れる行動力を捉えていた。これらは子どもの健やかな成長に必要な要素であり、育児に対する姿勢を把握する必要があると考えられた。

《いつどの程度の支援が必要になるか判断する》では、母親が育児を行えるか見極め、困難と予想される場合には継続した支援が求められる。

育児力を判断するためには、子どもを安全に育てることができる最低限の知識や育児行動、子どもとのやりとり、日常生活と子育て環境、社会性が重要な視点とされている[9]。この視点は本研究の結果と一致し、虐待を未然に防ぐために養育者である母親の育児力のアセスメントを行うことの重要性が示された。

2. 継続的な関わりで見守り続ける

保健師は《母親を尊重しつながり続ける》ことを大切にし、〈母親のペースに合わせる〉ことで育児や生活を見守り、〈母親の健康を気遣う〉など思いやる関わりを持ち信頼関係を構築していた。《母親の思いを受けとめ育児に向き合えるよう関わる》では、〈寄り添って傾聴する〉ことで母親の育児に対する気持ちを引き出し、〈できていることを見つけフィードバックする〉ことで気持ちを整理し自己効力感を高めて育児に向き合うことができるよう支援していた。

《母親の力に合わせて育児力を育てる》では、母親が持つ育児能力には個人差があり、〈出産・育児の準備を一緒にする〉、〈母子関係を深める関わりをする〉などの具体的な支援が必要な母親もいる。保健師は母親の育児能力や理解力に合わせて育児を支えていると考えられる。また、〈家族の協力を得て育児環境を整える〉ことで、家族にも関わり協力体制を作り、育児環境を整えていた。

《緊急性を見極めて介入する》では、〈母子の健康に影響を及ぼす手前で介入する〉というように虐待のリスクがある家庭を見守りながら、母子の安全が脅かされる場合にはその影響の程度を見極めて介入を行っていた。保健師は相手の立場や苦悩を感情的に理解し、認知的に共感することで、起きている危機を見抜き、予防的な関わりにつなげている[10]。本研究においても、寄り添い信頼関係を築き、つながり続ける中で緊急性を判断し、早期介入がされていたことは虐待予防の支援技術と言える。

3. 連携のあり方

保健師は《多職種連携による親子支援をする》中で、児童虐待のリスクがある母子に対して多職種で協働して支援を行っていた。孤立が虐待のリスク要因となることから、〈社会資源の活用を支え地域の中につながりをつくる〉、〈保育園につなぎ子どもの健全な発達と生活を見守る〉など、母子が地域の中につながりを持てるよう支援が行われていた。

《チームで支え合う》では、多職種で共有した支援の方向性に向けて各職種の専門性や強みを活かした役割分担や調整を行うことで、必要な支援を円滑に行うことが可能になると考える。また、児童虐待という支援困難事例に向き合う保健師が〈しんどい思いや気がかりを共有する〉ことで、辛さや悩みを抱え込まずチーム内で共有し、助言を得るきっかけとなる。支援者の支援困難感軽減のためには職場の上司・同僚と意見交換しやすい組織づくりや関係機関同士での連携・ネットワークの構築も重要[11]とされ、チーム内で相談・連携しやすい体制づくりが期待される。

結　論

児童虐待事例に向き合う保健師の支援として【育児力のアセスメント】、【継続的な関わり】、【多職種連携】が明らかになった。今後の課題として、児童虐待事例への支援は困難さがあることから、支援者同士が支え合う体制づくりや支援者自身のケアについてもさらに検討していく必要がある。

対象文献

(1)小笹美子(2012):こども虐待に対する保健師の支援ー事例経験による検討ー, 日本看護学会論文集 地域看護,42:46-49.
(2)岩清水伴美(2013):子ども虐待ハイリスク家庭への継続支援の要点と課題 市町村保健師とのケース検討会から, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要 21:1-11.
(3)鈴木浩子(2015):子ども虐待予防に向けた保健師の家庭訪問の支援による母親の変化,日本公衆衛生看護学会誌 4(1):32-40.
(4)小笹美子(2016):保健師によるこども虐待ボーダーライン 事例支援と連携, 日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション 46:176-179.
(5)中原洋子(2016):支援が必要な母親への妊娠中からの保健師の支援 妊娠届出時等の保健師の判断に焦点を当てて,日本地域看護学会誌 19(3):70-78.
(6)足立安正(2019):支援の必要な妊婦を見極めるために保健師が重視する情報と支援内容 保健師経験年数との関係,兵庫医療大学紀要 7(1):1-10.
(7)千葉栄子(2020):子ども虐待ハイリスク家族に対する市町村保健師の関係機関との連携の取り組み, 日本公衆衛生看護学会誌 9(1):10-17.
(8)山縣千開(2020):乳幼児をもつ生活困窮者世帯の育児に関わる支援課題および市町村保健師の活動内容, 日本地域看護学会誌 23(1):32-41.
(9)佐藤睦子(2021):児童虐待予防においてかかわりが難しい母親との信頼関係構築に着目した熟練保健師の支援, 日本公衆衛生看護学会誌 10(1)3-11.

引用文献

1)吉岡京子(2018):日本の保健師による分野横断的支援と今後の課題ー個別支援を例としてー, 保健医療科学, 67(4):350–359.
2) 岡本玲子,我澤量子,小出恵子(2017):他者の介入を拒否する一人暮らしの男性高齢者への保健師の家庭訪問技術ー対象把握から受け入れまでー,保健師ジャーナル,73(5):422-431.
3)新村順子, 宮崎美砂子, 石丸美奈(2016):精神障害者の個別支援における保健師が感じる困難とその対処ー精神保健福祉業務の経験年数による比較ー,日本地域看護学会誌,19(1):55-62.
4)永谷智恵(2009):子ども虐待の支援に携わる保健師が抱える困難さ,日本小児看護学会誌,11(2),16-21.
5)有本梓,田髙悦子(2014):児童虐待に対する保健師による活動内容と課題に関する文献検討,日本地域看護学会誌,17(2),45-54.
6) 厚生労働省：令和２年度児童虐待相談対応件数, 厚生労働省, 児童虐待防止対策 ｜厚生労働省 (mhlw.go.jp), (2022 年 4 月 13 日閲覧).
7)厚生労働省:母子保健施策を通じた児童虐待防止対策の推進について,厚生労働省,児童虐待に関する法令・指針等一覧 (mhlw.go.jp),(2022 年 4 月 13 日閲覧).
8)グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江：よくわかる 質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして, 第１版, 医歯薬出版株式会社, 2007.
9)古川薫,森脇智秋,橋本文子(2017):子ども虐待予防における保健師によるハイリスクな母親の育児力を評価する視点,小児保健研究,76(2),177-185
10)中板育美(2020):子どもの虐待を防止する援助のあり方を考えるー「寄り添う」ことと「危機介入」は相反するのかー,保健師ジャーナル,76(5):379-384.
11)有本梓, 田髙悦子(2018):行政保健師における児童虐待事例への支援に対する困難感の理由と特徴,横浜看護学雑誌,11(1),29-27.